

知的障害学級、自閉症・情緒学級合同「作業学習」学習指導案

日 時：平成〇〇年〇月〇日（火）第5校時

場 所：教室

指導者：〇〇〇〇

1 題材名 『販売実習を成功させよう！』

2 生徒の思いや願いと本題材の意図

(1) 生徒の実態

本特別支援学級は、知的障害学級に3年生2名、自閉症・情緒障害学級に3年生1名が在籍、さらに、教育相談的配慮で校内通級している3年生1名、計4名の生徒がいる。学習には遅れや偏りがあり、能力の個人差も大きい。素直で心優しい生徒たちである。さらに、お互いよさを認め合う言葉かけや、励ましのような温かい言葉を自然とかけ合ったり助け合ったりする雰囲気があり、4人全員が仲間を大切に、最高の学級にしたいという気持ちを持って生活をしている。また、どの生徒も学級の一員であることに誇りと自覚を持っているので、学級の仕事も進んで行うことができる。最近では、『人の役に立ちたい』『人を喜ばせたい』という気持ちが「何かお手伝いすることありませんか。」と言って進んで手伝いをしてくれる行動にあらわれてきている。作業学習に対する意欲・関心は高く、また、好きな教科の一つでもある。学習には、積極的に取り組むだけでなく集中して取り組むことができる。

(2) 題材について

作業学習は、作業活動を学習活動の中心にすえ、生徒の働く力や生活する力を高めることを意図としており、将来、社会に出て働き、自立していく上で必要となる知識、技能、態度、習慣を育てていくために、好適な授業であると考え。とりわけ根気強さや集中力をつけるという態度面を育て、それを習慣化させていくには欠かすことができない。本学級では、畑を耕し、苗を植えるところからはじめ、草取り、収穫といった一連の農作業を経験しながら、自らの手で育てた唐辛子を教材として、材料の入手、製造、製品販売までを一貫して行うことにより、生産から流通までのしくみを知ることができるだけでなく、心を込めて作った作業製品を販売することにより労働意欲も高まり、生徒の主体的活動につながると考え、本単元を設定した。

(3) 指導観

本学級の生徒たちは、丁寧にじっくり取り組むことにより、確実に技術が向上し自信をつけていくケースが多い。そこで、個々の障害の特性を理解し、個に応じた支援を行うことで、生徒が主体的に作業できるようだけでなく、働くための基礎・基本を確実に定着させたい。そのために、長いスパンで計画を立て、スモールステップで目標を細分化し、繰り返し学習を根気強く行う必要があると考える。さらに、意欲的に取り組めるための教材の工夫や、励ましの声かけ、賞賛の声かけを多くすることで、達成感や働く喜びを心から実感し、次の意欲へつなげられる場面を多く設けていきたい。

3 学校研究課題との関連

特別支援教育の充実とその視点に立つ学校教育の推進
～校内推進体制の構築と特別支援教育の視点に立った学習指導の在り方～

上記のように設定し、特別な支援を必要とする生徒への支援と視点にあてた授業改善を図っていく。

(1) 生徒の実態

A	実態や課題	・対人関係に少しずつ自信を持ち始め、進んで挨拶をしたり交流学級に参加したりと前向きになってきているが、経験が少なく初めてのことが多い。
	支援の方法	・実践の中ですぐに、「その～は良かったよ。」「～するともお互いによい気持ちになれるかもしれないよ。」といったフォローを入れ経験を積ませる。
B	実態や課題	・自分の考えや思いを言語化することが苦手で、周囲に伝わらないことが多い。
	支援の方法	・話し（書き）出すことができそうなのか、分からなくて困って黙っているのかを見極め、困っている場合は補助質問をしながら考えを引き出す。
C	実態や課題	・学習課題の量が多かったり、複数の手順があつたりすることには、意欲が低下しがちである。
	支援の方法	・乗り越えられる量に調節したり、時間を区切って取り組ませたり、先の見通しを持って（完成図を見せるなど）課題に取り組めるようにする。

D	実態や課題	・人と話をするに少しずつ自信を持ち始め、会話の声も以前よりは大きくなり、自分から声をかけられるようになってきた。
	支援の方法	・自信につながるよう些細なことにも賞賛の声かけをしながら、人に伝わる声の大きさ、自分の考えを伝えることの大切さを意識させる声かけも行う。

(2) 本時の授業における特別支援教育の視点に立った学習指導の工夫点

✓	環境整備	生徒自ら見通しを持って主体的に活動できるように、学習環境（教材、動線、時系列、視覚、手順）を構造化する。
✓	I C T	情報機器を利用して、より分かりやすく人に伝えるスキルを身につけさせる。（具体的には、ビデオまたはデジカメを利用した実物投影や、デジカメで撮影した画像を投影しながらの説明、写真にアニメーション効果と音楽を入れて作成した動画(CM)を通して考えや思いを表現させる。）

4 年間指導計画と題材の指導計画

<作業学習 年間指導計画>

	農作業	紙漉	手芸
4月	畑の整備	ミネトはがし ちぎり	運針、ボタン付け
5月	苗植え(マルチの利用)		
6月	水やり		小物作り
7月	草取り		
8月	水やり、草取り、収穫		
9月	収穫	ちぎり	刺し子
10月	一味唐辛子の製造 (作業実習週間)	パルプ玉作り	
11月	販売実習	漉き (作業実習週間)	布箱作り
12月			ミシン練習
1月	まとめ	和紙を使った 小物作り	コサージュ作り
2月			
3月		まとめ	まとめ

<短期計画>

時間	一味唐辛子の製造・販売実習の主な活動
1	オリエンテーション（作業工程と仕事分担の説明）
20	製造【作業工程と作業内容】 ① 汚れふきと選別：乾いた布巾で拭きながら、変色している物や虫に食われた跡があるものは取り除く ② へたとり：へたをとり実だけにする ③ きざみ：はさみで細かくきざむ ④ すりおろし：ミルサーで粉末状にする ⑤ 容器詰め：漏斗を使って容器に詰める ⑥ パッケージ：ラベルを貼り袋に詰める
6	販売実習に向けて【販売についての学習と準備】 ① 製造・流通・販売のしくみ（1時間） ② ダイソー見学（1時間） ③ 販売のための4つの工夫（分担と活動） (CM作成、包装と陳列、ポスター、接客)（3時間） ④ 発表『販売実習を成功させよう！』（本時1時間）
2	販売実習（2時間）

5 本時の学習指導

(1) 目標

○情報機器を効果的に使い、聞き手に分かりやすい発表ができる。

○自分の役割が分かり、お客さんが気持ちのよく思える対応をしながら最後まで販売実習ができる。

	仕事分担	個人目標
A	◆包装と表示の仕方 ◇会計	・緊張感に負けず、はっきりとした声で最後まで説明ができる。 ・Dと協力して合計金額やおつりを計算し、「〇円になります。」や「おつりです。」と言っておつりを手渡すことができる。
B	◆ポスター作成 ◇個数確認と袋づめ	・前を向いて発表原稿を大きな声で読むことができる。 ・「〇点です。」「ありがとうございました。」といって商品を手渡す仕事を最後まで行うことができる。
C	◆CM作成 ◇会計	・前を向き、語尾が小さくならず自分の思いを話すことができる。 ・「〇円になります。」と言ってお金を預かり、「丁度お預かりします。」や「〇円のおつりになります。」と言っておつりを手渡すことができる。
D	◆販売の心得 ◇個数確認と袋づめ	・聞いている人に伝わる声の大きさと最後まで発表できる。 ・相手の顔を見ながら「〇点になります。」「お買いあげありがとうございました。」と言って商品を手渡すことができる。

(3) 展開

学習活動	学習内容	・指導上の留意点 ◎個に応じた支援				*評価
		A 包装と表示の仕方／会計	B ポスター作成／個数の確認と袋詰め	C CM 作成／会計	D 販売の心得／個数の確認と袋詰め	
1 挨拶をする	挨拶の仕方 ・相手の方に体を向け大きな声を出す。 ・進んで挨拶をする。	- 模範を見せながら、「1、2、3」と小さな声で声かけをする。 「気をつけ」の号令に注目させ、背筋を伸ばして動きを止め、気持ちを集中させる。 - 声かけに合わせて腰から曲げるおじぎをさせ、顔を上げたらはっきりとした大きな声で「お願いします。」と挨拶できるようにする。 - 動きが止まるまで待つ。声が出ていないときはやり直しをする。				* 規律ある態度（時間を守る、学習の準備、挨拶）を身につけている。
2 話を聞く姿勢をつくる	話の聞き方 ・話し手の方を見る。 ・背筋を伸ばし、手を膝の上に置く。		◎「○○ができています」と具体的に褒める声かけをする。	◎アイコンタクトで『しっかりできているよ』の合図を送る。		
3 本時の学習内容と目標を確認する ①説明を聞く ②個人目標を記入する	学習への見通し	- 前置きをした後、話す内容の項目数を言葉と指の合図の両方で伝えることで注意を引き、体と視線が教師の方に向いたことが確認できたらはっきりとした声で話し始める。 - 意欲につながる、主体的に活動できる、目標達成ができ自信につながるような個人目標を設定する。 - 個人目標はカードにし顔写真カードと併用して注目しやすくする。さらに、個人目標を記入する際、カードを手元に置いて見ながら記入できるようにする。				* 見通しが持てたか。 * 目標を確認し意欲が持てたか。
『販売実習を成功させよう！』 ・自分の工夫を分かりやすく伝えよう ・目指せ 80 個完売!!			◎記入箇所を確認させる声かけをする。			
4 工夫したことを発表し合う	発表の仕方 ・背筋を伸ばして顔を上げ、聞き手の方を見ながら、はっきり大きめな声で話をする。 ・情報機器を活用し、注目して欲しいところをタイミング良く映し出す。	- 生徒の主体性を尊重し、活動の様子を見守る支援や過剰な声かけをしないようにする。 - 手助けが必要である時、黙ってしまうのではなく「すみません。○○ができなくて困っています。手伝ってもらえませんか。」と伝えられるようにすることを促す。				* 情報機器を有効活用して、聞き手に伝わる発表ができたか。
		デジカメをTVに接続し、実物を投影しながら説明する。	PowerPoint でまとめた資料を模造紙に貼り、差しながら説明する。	画像とキャッチコピーをアニメーション効果と音楽を入れて作ったCMを流す。	撮影した動画を見せたり図やカードを使ったりして説明する。	
		◎肩を軽く叩き安心させる。機器の準備を一緒に行い、励ましの声かけをする。	◎すぐに話し始められなくても待つ。時間がかかる時は黙って原稿の読む部分を指差す。	◎機器の準備、話し出すタイミングを本人に任せ、確認のアイコンタクトを送り見守る。	◎機器の準備を隣で見守り、話し出す前に励ましの声かけをし、安心させる。	
		◎「さすが！」と称賛の声かけをする。	◎ボディタッチをしながら称賛する。	◎「～が良くできたね。」と称賛する。	◎できたことを認める称賛をする。	

5 販売実習の準備をする	準備の仕方 ・準備し忘れたということがないように必要な物や位置が載っているプリントにチェックを入れながら準備をし、最終チェックをして確認する。	・生徒が主体的に販売準備できるように、配置位置と各自の担当箇所が分かるプリントを配布し、そのプリントにチェックを入れながら準備をしているか確認し、していないときは指示をする。また、担当箇所が終わったら他の所を手伝うよう声かけする。			
6 販売実習を行う	販売を通して人と関わる ・丁寧な対応や言葉遣い ・笑顔（顔の表情） ・相手に伝わる声の大きさ ・商品の良さを伝えられる ・感謝の気持ちを持つ	◎迷いそうな所はアイコンタクトを送りアドバイスをする。	◎初め一緒にやりながらやり方を確認させる。	◎ペアの人やクラス全体の動きも見よう声かけをする。	◎自分から進んで声をかけられるよう声かけをする。
7 本時を振り返る	振り返り ・自己評価 ・感想記入	・緊張をほぐす声かけや「よし、がんばるぞ!」という雰囲気づくりをする。 ・生徒の主体性を尊重し、活動の様子を見守る支援や過剰な声かけをしないようにする。	◎隣で見守りながら、できていることをすぐに称賛し安心してできるようにする。	◎初めは一緒にやりながら言葉や袋詰めやり方を確認させる。	◎丁寧な対応ができない時は相手の立場に立って考えさせる声かけをする。
8 挨拶をする		・全体目標と1時間の流れにそって学習を振り返る話をした後、個人目標を再度確認させてから自己の行動や気持ちを振り返らせる。感想記入で思いを言語化させる。	◎良くできた行動場面を投げかける。		

*自分の役割を果たすことができたか。

*お客さんに喜んでもらえることができたか。

*販売実習をやって達成感を味わうことができたか。

(4) 板書計画

授業の流れ

1. 本時の目標
2. 工夫自慢大会
3. 準備
4. 販売実習
5. 振り返り

今日の目標

販売実習を成功させよう！

工夫自慢大会：自分の工夫を分かりやすく伝えよう

販売実習：目指せ 80 個完売!!

がんばりカード	
月 日 ()	時間目
目標 『販売実習を成功させよう!』 ・自分の工夫を分かりやすく伝えよう ・めざせ 80 個完売!!	
個人目標	◎○△
感想	◎○△
_____ _____ _____	